

患者家族参加による医療安全

医療安全管理室長 清水 俊行



いま医療現場では患者さんの安全を確保する様々な取組みが進んでいます。その中で医療スタッフだけでなく医療の当事者である患者さんやご家族も加わる「患者家族参加による医療安全」の重要性が注目されています。

医療への患者参加には、医療に伴うリスクを理解し納得して主体的に医療に参加することに加え、医療スタッフと協働し医療事故を防止するという意義があります。例えばアレルギーがある薬が誤って処方されたとき「おかしい」と医療スタッフに伝えることも重要な患者参加による医療安全です。氏名の確認では、患者さんやご家族と一緒に確認の方が誤りに気づきやすくなります。最近医師が病理検査や放射線検査などの検査結果を確認し忘れ治療が遅れる事例が問題となっています。病院ではこうした事態が発生しない仕組みを工夫していますが、患者さんが「前回の検査結果はどうでしたか？」と質問してくれれば伝え忘れによる過誤を減らすことができます。検査の結果を自ら聞くことは医療事故防止効果の高い患者参加です。

医療への患者参加のためには、患者さんは自分の病気や治療に関してリスクを含め十分な情報を医療スタッフと共有することが不可欠です。薬や食物のアレルギーや禁忌事項など大切な情報を医療スタッフが知らなければ医療事故を防止することができません。多くの患者さんを診療する病院では、医療スタッフが注意しても患者さんを取り違えるリスクがあることを患者さん自身が知っていれば、フルネームを自ら名乗ることや、リストバンドを着用するといった医療安全対策の意義を理解して頂けると思います。誤認を防ぐために自ら姓名を名乗る、誤薬を防ぐために医療スタッフと薬を確認する、聞かれなくても必ずアレルギーや禁忌事項を積極的に伝えるなど、医療事故を防ぐためにあなたにできることは、あなた自身が医療チームの一員(パートナー)として積極的に医療に参加することです。

患者さんの医療参加を妨げる最大の要因は医療スタッフへの遠慮です。「わからないことがあっても質問しない」「おかしいと思ったことを伝えられない」といったことがこの遠慮から生じます。医療現場では患者さんやご家の質問やご指摘から医療事故を未然に防ぐことができ、医療スタッフが「教えてくれてありがとう」と思うことがあります。こうしたことから、私達医療スタッフは患者さんに質問されたりご指摘を頂くことを望んでいることをご理解ください。直接担当スタッフに伝えることがためられる場合は、1階エントランスに患者相談窓口を設置しています。自分の受けている医療を含め、医療安全上疑問に感じる事があればどなたでも「患者相談窓口」で医療スタッフに伝えてください。医療の安全性を向上することに大きく寄与します。医療の主人公である患者さんやご家族の積極的な医療参加をお願いします。

私たちは、患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

ピロリ菌検査を受けましょう



内視鏡センター長 赤松 泰次

ピロリ菌は大部分が小児期に感染し、そのまま持続感染します。それ以後に新たに感染することはほとんどありません。主な感染経路は、自然界(井戸水、湧き水など)から入る環境因子と、家庭内感染(特に母親が多い、父親・兄弟・祖父母も一部あり)などの接触因子です。近年日本の衛生環境がよくなったことから環境因子が減り、現在では接触因子がメインルートになっています。

ピロリ菌感染があっても自覚症状がない人が多いですが、慢性胃炎を引き起こして胃粘膜が脆弱化するため、胃がんや胃・十二指腸潰瘍の原因になります。ピロリ菌に感染していない人が胃がんになることはまれですが、ピロリ菌に持続感染している人が生涯のうちに胃がん罹患する可能性は14.8%と考えられています。しかし、途中でピロリ菌の除菌を行うと、胃がんになる危険性が1/2から1/3に減少し、若い時期(感染期間が短い)に除菌する方が胃がんの予防効果がより高いことが動物実験で確認されています。

ピロリ菌検査は、原則として1年以内に胃内視鏡検査を受けていないと自費診療になりますが、当院では昨年10月より、ピロリ菌検査を初診料を含めて1,540円で行っています。対象は15歳以上であれば特に制限はありませんが、ピロリ菌除菌治療を受けた方のご子息、結婚や妊娠する前にピロリ菌検査を受けておきたい方、以前に慢性胃炎や胃・十二指腸潰瘍といわれたがピロリ菌検査や除菌治療を行っていない方などが特にお勧めです。また、その他ピロリ菌感染が心配な方も受診してください。なお、以前にピロリ菌検査や除菌治療を受けたことがある方は対象外です。

希望される方は、毎週月曜日午後のピロリ菌専門外来を受診して下さい。予約は当院の「地域医療福祉連携室」で行っています。当日来院したら先に採血(ピロリ菌の血清抗体価を測定)を行い、30分程度で結果が出ます。食事制限はありません。

運営協議会を開催しました

2月4日(火)に令和元年度第2回運営協議会を開催しました。会長の三木市長をはじめ地域の代表者や行政関係者らが出席し、今年度上半期の業務実績や経営状況の報告と、来年度からの第3期中期計画についての説明を行い、委員さんとの活発な意見交換が行われました。

会議の中で、地域で連携をとりながら在宅医療の充実を図っていくこと、早期発見・早期治療で地域の皆さんが健康で長生きできるようにドックを推進(検診率の向上)していくことが大切などの意見が出されました。また、現在、連日報道されている「新型コロナウイルス」についての質問やご意見も頂戴し、臨床病理がはっきりしない中、住民もどのように対応してよいのかわからず不安な状況に対し、行政と連携しながら、地域住民へ適切な情報を発信していくことなどが大切との話がありました。

当院は、「地域に開かれた病院」「地域の皆さまから信頼される病院」として、このような地域住民の皆様の声を真摯に受け止め、地域で連携してよりよい病院づくりに努めていきたいと思っております。



感染症予防に努めましょう

この時期は、インフルエンザをはじめとする感染症の流行期です。加えて、12月末頃から新型コロナウイルス感染症についての報道がされており、不安を抱いている方も多いと思いますが、過度に不安になる必要はありません。インフルエンザ予防対策と同様に各自日常の感染症対策を行ってください。

具体的には、マスクの着用、手指衛生(手洗い、アルコール手指消毒薬を使用)、咳エチケット(咳をする人はマスクを着用したり、咳、くしゃみをするときにはティッシュなどで口と鼻を覆ったり、衣服の袖で口と鼻を覆うなど)などです。まずは感染しないように一人ひとりが予防を心がけてください。



咳エチケット

他人に感染させないために咳、くしゃみをする際に実践しましょう。

- マスクを着ける
- ティッシュやハンカチで口・鼻をおおう
- 袖で口・鼻をおおう



ボランティア活動について

現在、当院には様々なボランティア活動をされている方がいます。ボランティアのみなさんのお陰でとても気持ちのよい空間がつかられています。今年度、様々な形でご協力いただいたボランティアのみなさんの活動をご紹介します。

【院内コンサート】

6月から12月の間、毎月エントランスホールにおいて、様々な方々の協力によりホスピタルコンサートを開催しました。ジャズ、フラとハワイアンバンド、エレクトーン演奏、ゴスペル、混声合唱など季節に合った楽しい素敵な時間を提供していただきました。入院中のみなさんも、心とむひとときを過ごせたのではないのでしょうか。



【院内デイケア】

毎週水曜日13時30分～15時30分まで院内デイケアが行われています。院内デイケアに参加する患者さんの送迎、体操やレクリエーション、工作の補助をボランティアのみなさんが行っています。いつもニコニコと接していただき、患者さんを和ませてくれています。職員と一緒に院内デイケアを運営していただく新規ボランティアさんも募集中です。



【環境美化】

1年を通して病院周辺の環境美化にご協力いただいています。正面玄関前の花壇などにとってもきれいなお花を植栽していただき、垣根の剪定や草取り、水やりなど、いつも細やかに対応していただいています。そのお陰で、病院の周りは、四季折々の花で彩られ、とても気持ちのよい空間となっています。



毎年恒例の病院の裏側探検！ 親子病院見学会を開催しました

11月30日(土)に、須坂中央地域づくり推進委員会・須坂市中央公民会主催の親子見学会が開催され、親子等18名の皆さんにご参加いただきました。この見学会は、毎年この時期に開催しており、なかなか見ることのできない病院の裏側の見学ができる子どもたちに人気の企画です。



顕微鏡でがん細胞が見えたかな？



レントゲンで体の中を見ました



心臓の音を聞いたよ

院長からの当院概要説明の後、2つのグループに分かれて、実際に検査で使用している顕微鏡でがん細胞や結核菌を見たり(臨床検査科)、レントゲンやCT、MRIで撮影された体の内側を見たり(放射線技術科)、研修医や医学生が行っている訓練を体験(研修センター)しました。研修センターでは、AEDや心臓マッサージを体験したり、本物そっくりの人形で心臓の音、肺の音を聞いたりしました。なかなか音の聞こえる場所を探すのに苦労しながらも、見つけた時には、耳をすまして熱心に聞いていました。今後も、このような見学会を開催し、地域の皆さんが当院を知り、医療に興味を持っていただく機会を作っていきたいと思います。



産婦人科からの お知らせ

当院産婦人科は、常勤医師4名、非常勤医師1名の5名体制(うち女性医師2名)で診療を行っています。お産をはじめ産婦人科疾患全般について対応しています。お問い合わせ、ご予約は、地域医療福祉連携室へご連絡ください。

地域医療福祉連携室
電話026-246-6577

長野県立信州医療センター・外来診療担当予定表

○午前の受付時間は8時30分～11時30分(自動受付機は7時30分～)

○午後の受付時間は各診療科、曜日により異なりますので、外来担当表にてご確認ください。

(令和2年2月13日現在)

診療科		月	火	水	木	金	
総合診療科		中村 真一郎 宮島 正行/植原 啓之	高 裕信 小泉 正幸	原田 輝和 貝梅 紘子	赤松 泰次 木畑 穰	鈴木 一史 関 年雅	
内科	呼吸器 感染症	午前	小坂 充	山崎 善隆		山崎 善隆	小坂 充(1・3・5週) 久保 惠嗣(2・4週)
		午後	山崎 善隆	小坂 充	山崎 善隆		
	消化器	午前	下平 和久	赤松 泰次	中村 真一郎	下平 和久	宮島 正行
		午後				植原 啓之	
	循環器	関 年雅	丸山 隆久	臼井 達也 (長野赤十字病院医師)	関 年雅	丸山 隆久	
	血液	貝梅 紘子	貝梅 紘子	小泉 正幸		小泉 正幸	
	腎臓		市川 透(1・3・5週) 小川 洋平(2・4週) (長野赤十字病院医師)				
	糖尿病/生活習慣病	小林 永幸		長澤 武志(終日)	小林 永幸 宮本 晃男(終日)	小林 永幸	
	肝臓				田中 榮司		
	漢方(終日)			布施 修 (1・3週)			
	ペースメーカー外来				関 年雅 (13時30分～)		
	ピロリ菌専門外来	赤松 泰次 (13時30分～)					
	嚥下機能評価外来	山崎 善隆(14時～)	山崎 善隆(午前)	山崎 善隆(14時～)	山崎 善隆(午前)		
	貧血外来		小泉 正幸(14時～)				
脳神経内科(午後)					松野 淳洋(14時～)		
海外渡航者外来(午後)		山崎 善隆(3週) 氏家 無限(1週)					
外科 (午前)	1 診	古澤 徳彦	久保 直樹	交代制	久保 直樹	古澤 徳彦	
	2 診	寺田 克	増尾 仁志		寺田 克	増尾 仁志	
血管外科(午前)		上沢 修			上沢 修		
呼吸器外科(午前)			坂口 幸治			坂口 幸治	
禁煙外来(午前)				上沢 修			
形成外科(午後)		高清水 一慶 (14時～16時)(予約制)		土屋 彩 (14時～16時)(予約制)			
整形外科 (午前)	初診	小松 幸子 笹尾 真司	渡邊 憲弥 佐々木 純	佐々木 純	三井 勝博(下肢) 佐々木 純	上原 将志(脊椎)	
	予約	三井 勝博	小松 幸子	渡邊 憲弥	三井 勝博 笹尾 真司	渡邊 憲弥(2・4週) 小松 幸子(1・3・5週) 笹尾 真司(2・4週)	
脳神経外科(午前)		銭坂 英生(1・3・5週)			伊東 清志		
皮膚科(午前)				高沢 裕子		小口 真司	
小児科	初診 (午前)	鶴田 悟郎	南 勇樹	南 勇樹(1・3・5週) 鶴田 悟郎(2・4週) 信大医師(交代制)	鶴田 悟郎	南 勇樹	
	予約 (午後)	予防接種(14時～) 慢性外来(16時～)	乳児健診(14時～) 慢性外来(15時～)	慢性外来 (14時～)	小児循環器外来(14時～) 発達・心理外来(初診) 慢性外来(15時～) 慢性外来(15時～)	予防接種(14時～) 慢性外来(16時～)	
産科	午前	南郷 周児	堀田 大輔	南郷 周児	豊田 友子/交代制	堀田 大輔	
	午後	豊田 友子/交代制	産後健診				
婦人科	午前	飯高 雅夫 堀田 大輔	飯高 雅夫 南郷 周児	飯高 雅夫 堀田 大輔	春日 美智子	飯高 雅夫 交代制	
	午後	春日 美智子/交代制	春日 美智子/豊田 友子 (交代制)				
泌尿器科	午前	信大医師(交代制)	上野 陽子	宮下 大輔	井川 靖彦	井川 靖彦	
	午後		上野 陽子 (13時30分～)	井川 靖彦	井川 靖彦	井川 靖彦 (1・3・5週)	
眼科	午前	山田 哲也	山田 哲也	山田 哲也	手術	山田 哲也	
	午後	山田 哲也 (予約のみ)(13時30分～)	手術	山田 哲也 (検査・予約)(13時30分～)		山田 哲也 (予約)(13時30分～)	
耳鼻咽喉科	午前	清水 勝利	清水 勝利 (新患紹介来院11時まで)	清水 勝利	清水 勝利 (新患紹介来院11時まで)		
	午後			清水 勝利 (14時30分～16時30分)			
麻酔科(ペインクリニック)(午前)		清水 俊行		清水 俊行		清水 俊行	
漢方東洋医学外来(予約制)(午前)			水嶋 文雄				
精神科(午後)					長峯 清英(2・4週)(14時～)		

(診療情報提供書の送付先)長野県立信州医療センター・地域医療福祉連携室 FAX 026-246-5530・TEL 026-246-6577(直)
4月から大幅に変更になる可能性がありますので、当院ホームページ等でご確認ください。